



大学入学共通テスト出願

57期生は大学入学共通テスト(以下、「共通テスト」)の出願書類を書き終えました。校内での最終チェックの後、来月初旬に学校でとりまとめて発送する予定です。共通テストまでおよそ16週、いよいよ受験が現実味を帯びてきました。

57期生が受験する共通テストは、2つの日程が用意されていた昨年度とは異なり、来年1月15日(土)・16日(日)のみの日程で実施されます。感染症や事故等、やむを得ない理由がある場合に限り追試(1/29・1/30)を受験することができますが、万全の体調で仲間たちと一緒に受験できるよう、日頃から健康等に注意して生活しましょう。本校の出願者は、鹿児島大学会場等で受験する予定です。

共通テストは、国公立大学入試の一次試験としての役割のほか、私立大学入試等にも利用されています。大学や学部学科によって必要な科目や配点が異なるので、事前調査が必要です。1・2年生も、全クラスの本棚に並んでいる『蛍雪時代』を手にとって確かめてみましょう。

決意の後期

後期の1年生の課題は「文理コースの選択」、2年生の課題は「志望校の決定」です。

1年生にとって、文理選択は高校入学後初めての進路に関する大きな決断です。『進路の手引き』26頁や『キャリアプランニングノート』24頁以降をよく読み、よく考えて決定しましょう。保護者や先生方、先輩からアドバイスをもらい、『キャリアプランニングノート』81頁のワークシートも活用しましょう。文理選択に関する思考を文章化し、「見える化」することは、納得できる選択をするための有効な方法です。

2年生の秋は志望校を絞り込む時期です。「将来の夢」や「行きたい大学」などの明確な目標は、学習意欲の向上につながります。早期に学習意欲が向上すれば、幅広い知識を土台に「思考力・判断力・表現力」が求められる共通テストの準備に余裕を持つことができます。早期に「覚悟」を決めた者が、「自己実現」への道のりを、広く安全なものにできるのです。積極的に進路を検討しましょう。

振り返りと再構築

学習内容定着のために何度も復習することの重要性は皆がよく知っています。しかし、「授業と同じ問題なのにテスト本番でできない」ことがあるのはなぜでしょうか。それは振り返り方に問題があるからです。模範解答や解説を読みながら問題を「なぞる」という方法だと、「分かったつもり」で終わっていることがあります。以下に、「つもり」を防ぎ、定着度を高めるテクニックである「セルフティーチング」を紹介します。

①計算問題のポイントを先に把握する

例えば、「この問題は、面積比を線分比として計算すること！」と、実際に声に出して説明した後、手を動かして「解法の再現」に取り組んでみよう。

②読解問題の解答根拠を指さし確認する

例えば、記号問題の正誤に一喜一憂するのではなく、「この設問の解答根拠は、本文のこの部分(指をさしながら)で、it がさらにこの部分を指しているから、この設問の解答は、エ！」と、声に出して説明してみよう。なお、国語の読解問題で押さえるのは、文章が変わっても「抽象化」「因果把握」「対立把握」の3つだけである。

③逆一問一答をやってみる

例えば、「享保の改革後、商人の力を利用して幕府の財政再建を試みた老中は誰か？」という問いに、「田沼意次」と答えるのが一般的な一問一答だが、「田沼意次」という言葉を見て、「享保の改革の後、商人の力を利用して幕府の財政を立て直そうとした老中である」と自分の言葉で説明してみよう。難易度は高いが、理解は確実に深まる。

【参考：<http://www.ring.brigh10.jp/column/column-8755/>】

上記①～③に共通するのは、「声に出して」答えを「再構築」することです。何度でも自分の言葉を使って説明ができる状態になれば、その内容は完全に定着していると言えるでしょう。先日、「東大生は独り言をよく言う」といった内容の記事がありましたが、「声に出す」ことの有用性を示しているのではないのでしょうか。

後期が始まります。学習への意識を改めるにはよい区切りです。振り返りの質を高め、何度も「再構築」することで学習内容の定着を図りましょう。そして、後期の定期考査や模擬試験で成果を確認しましょう。

大学入学共通テストまであと113日。頑張り3年生！